

## 今後の展望と課題

佐賀大学芸術地域デザイン学部 石井 美恵

佐賀大学芸術地域デザイン学部のキュレーション分野は国内でも数少ない博物館専門職を養成する専門課程で、美術史、博物館学、博物館資料保存学、考古学、アート・マネジメントの専任教員を配し、佐賀大学美術館を実践の場として学芸員教育を行っています。2017年7月29日（土）に東京文化財研究所と本学が共催した研究集会「日本の染織品の保存」は、国立文化財機構の染織担当学芸員と研究員による九州地域へのミュージアム・アウト・リーチプログラムとして実施したもので、たいへん充実した講演内容でした。日本の国立博物館における染織資料の保存についてこれほど具体的に、奥深く、かつ率直に現場の実情が報告される研究集会はこれまでにありませんでした。当日は37度を超す猛暑のなか、佐賀はむろんのこと長崎、熊本、福岡、そして遠くは京都、奈良、長野、東京からおよそ60名もの参加者があり、予想以上の反響がありました。学生たちにとっては、学芸員という専門職が多様な事柄に心を配らなければならない重責のある仕事であることを知るまたとない機会となりました。

近代日本における文化財修理の第1号が「天寿国繡帳」の染織品です。それにもかかわらず、染織品

の保存領域は絵画、書籍、彫刻にくらべて遅れをとっております。染織品の保存という聞きなれないテーマの研究集会を佐賀で開催し、これほど多くの関心が集まった背景には、日本の国立博物館がまとまって染織資料の保存について議論する場がこれまでになく、この貴重な機会を聞き逃すまいという聴衆の気持ちの表れのように思います。東京文化財研究所との共同研究ではこのような現状を打破できるような成果をあげてゆく必要を感じた次第です。研究集会の講演記録が報告書として刊行され、今後も引き続き情報共有できるように努力してゆきます。

東京文化財研究所と佐賀大学の「染織品を中心とする文化財の保存にかかる共同研究」の締結は亀井伸雄所長の発案で実現したものです。また研究集会の開催は文化庁の伊東哲夫氏のご理解がなければ実現しませんでした。心より感謝の意を表します。

ご講演いただいた文化庁の輿石英里氏、京都国立博物館山川暁氏、東京国立博物館小山結弦葉氏をはじめ、東京文化財研究所の山梨絵恵子副所長、同中山俊介国際協力センター長、菊池理予氏に御礼申し上げます。